

京都市の伝統産業を
最大限活用！

国立京都国際会館の多目的ホールにおける「京都らしい設え」について

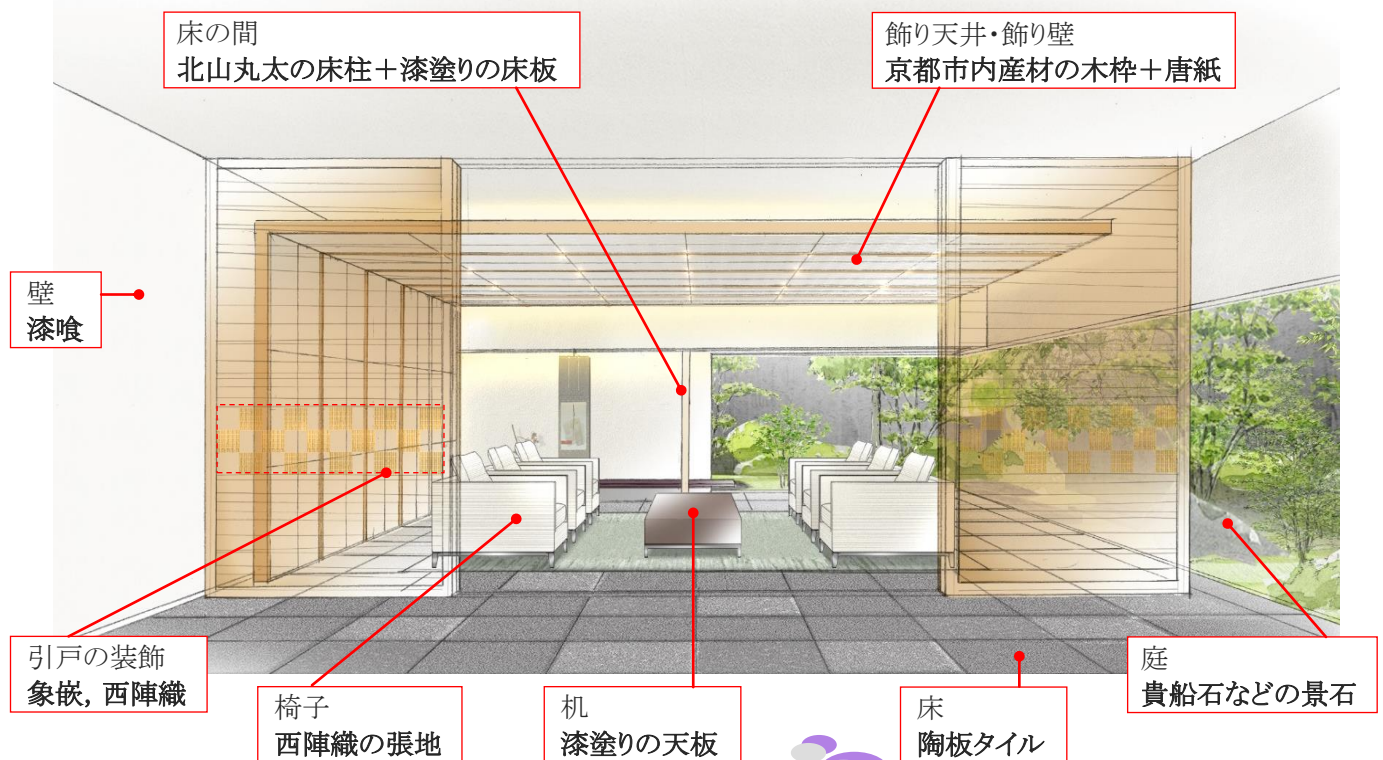
～日本文化を発信！「京都らしい設え」のイメージを初公開！～

京都市と公益財団法人国立京都国際会館では、国が建設中の国立京都国際会館の新しい多目的ホール（平成30年6月しゅん工予定）の控室やロビーに、京都ならではの付加価値を加える「京都らしい設え」を施す取組を連携して進めています。

この度、有識者から助言等をいただきながら検討を行ってきた、京都の伝統産業等をいかした内装や調度品による「京都らしい設え」の具体的なイメージがまとまりましたので、お知らせします。

<賓客の接遇も想定した「特別室」のイメージ>

※ このパースはイメージとして作成したものであり、詳細なデザインや色などは実際と異なる場合があります。



特別室における「京都らしい設え」の主な特徴

- 木や紙、陶板、漆喰など伝統的な素材で内装全体を構成
- 北山丸太の床柱と床板に漆を施した床の間
- 西陣織や京指物、漆を用いた家具
- 貴船石や鞍馬石など京都の石を用いた特別室専用の庭

特別室以外にも…

ロビーエリアでは、京焼・清水焼等を取り入れた設えでお迎えます！（裏面参照）
全体では、30品目程度に及ぶ伝統産業の技を活用予定！

くエントランスからホールに至るまでのアプローチ空間となる

「ロビーエリア（歩廊とホワイエ）」のイメージ

※ これらのパースはイメージとして作成したものであり、詳細なデザインや色などは実際と異なる場合があります。

【外部と内部を結ぶ迎え入れ空間となる歩廊】

里山の四季を象徴する草木

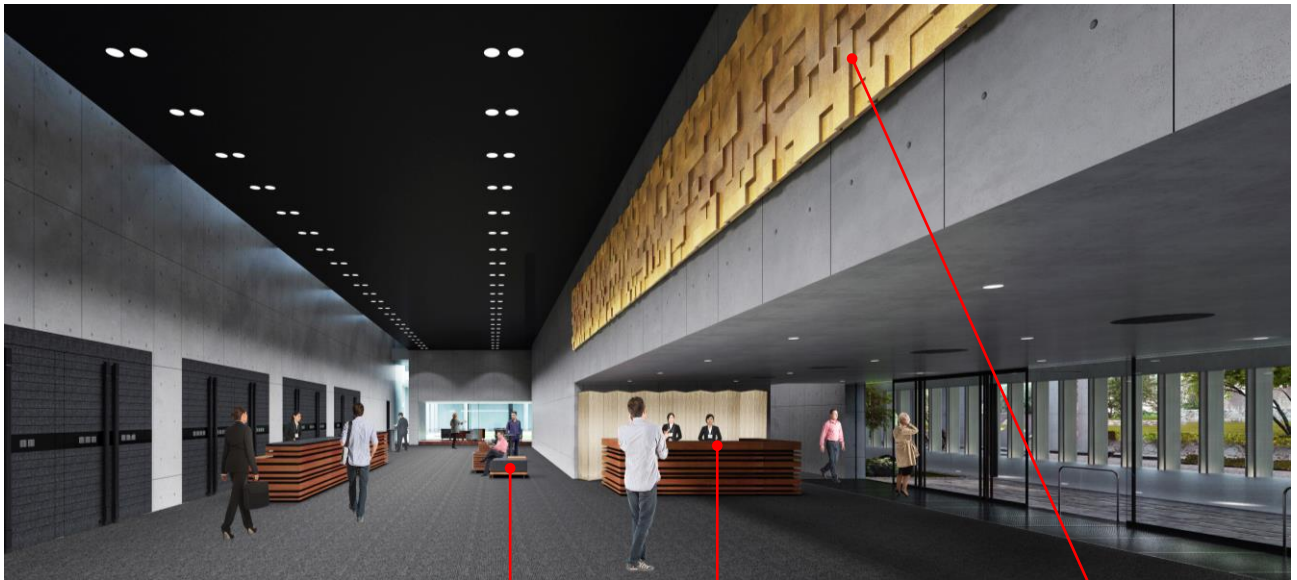
水琴窟



貴船石などの景石



【受付や休憩、交流など多様な場となるホワイエ】



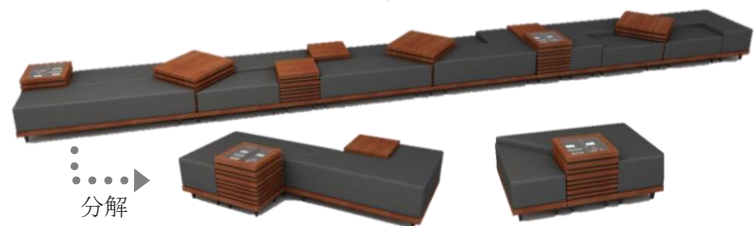
【ホワイエ奥のラウンジ空間】

受付カウンター 漆を擦り込んだ天板

壁アート 京焼・清水焼



ソファベンチセット(※組合せ次第で様々な使い方が可能)
漆を擦り込んだ天板+展示ケース仕様のサイドテーブル



ハイテーブル 京焼・清水焼の天板

ラウンジチェアセット 漆を擦り込んだ天板

ロビーエリアにおける「京都らしい設え」の主な特徴

- 里山の四季美と水琴窟により迎え入れる庭
- 木部の天板部分に漆を擦り込んだ木製家具
- 伝統産業製品の紹介や情報発信ができる展示ケース仕様のサイドテーブル
- 天板に京焼・清水焼の薄型陶板を用いたハイテーブル
- 京焼・清水焼の壁アート

※ 画像データが必要な場合は、総合企画局総合政策室政策総務担当までお問い合わせください。

(参考)

1 国立京都国際会館の多目的ホールについて

国土交通省近畿地方整備局において、平成26年度から設計に着手され、現在、平成30年6月のしゅん工を目指し、順次、工事が進められています。



左が多目的ホール、右がイベントホール(既存)

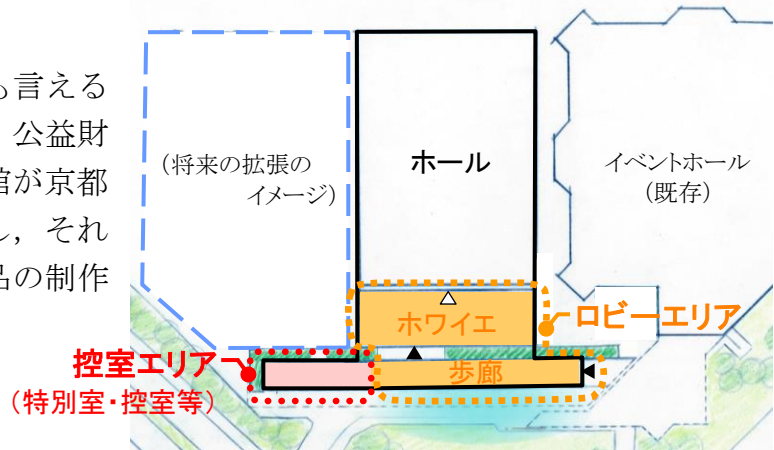
2 「京都らしい設え」の取組について

(1) 趣旨・目的

京都市と公益財団法人国立京都国際会館が連携し、京都ならではの付加価値として「京都らしい設え」を施すことにより、日本文化の一層の発信はもとより、京都ならではの魅力を備えた独自のMICE戦略の推進や京都市の伝統産業の振興を図ることを目的として実施するものです。

(2) 実施方針

多目的ホールの顔とも言えるロビーや控室を中心に、公益財団法人国立京都国際会館が京都らしい内装工事等を施し、それにふさわしい調度・備品の制作等を京都市が行います。



(3) 平成28年度の取組

昨年度、京都市では、伝統産業や伝統工芸等に関する学識経験者等で構成する「京都らしい調度・備品有識者懇談会」を開催し、京都市が制作等を行う調度・備品について、専門的な見地から幅広い意見や助言を聴取し、その仕様やデザイン等の検討を行いました。

<京都らしい調度・備品有識者懇談会委員名簿(五十音順・敬称略)>

氏名	役職名(当時)	備考
おおやぶ ひろし 大藪 泰	京都市産業技術研究所研究フェロー	
おざき まさと 尾崎 真人	京都市美術館学芸課長	
かきの きんご 柿野 欽吾	京都産業大学理事長	座長
こやま あけみ 小山 明美	京都観光おもてなし大使・ホテルコンシェルジュ	
さとう けいじ 佐藤 敬二	京都精華大学デザイン学部教授	
もりぐち くにひこ 森口 邦彦	染色家	

(4) 平成29年度及び平成30年度の取組(予定)

平成30年度に予定されている多目的ホールのしゅん工・オープンを見据え、今年度から2箇年をかけて、順次、京都らしい内装や作庭に係る工事、京都らしい調度・備品の調達を行ってまいります。また、賓客等をお迎えする際には、その時々ふさわしい美術工芸品を設えることができるよう、京都市美術館等と連携した借用の仕組みを構築してまいります。